

スタック用 HUB CentreCOM RH509SL/513SL/517SL ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM RH509SL/513SL/517SL(以下、RH509SL/513SL/517SL)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品は、10BASE-T インターフェイスを9ポート(RH509SL) 13ポート(RH513SL) 17ポート(RH517SL) 装備したスタック用ハブです。
別売のスタックケーブルを使用して、最大2台までのスタック接続が可能ですので、簡単にポートの増設を行うことができます。本書をよくお読みになり、正しい設置を行ってください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

● 特長

- コンパクトなボディサイズ
- 専用のスタックケーブルCBL06(別売)で、最大2台までのスタック接続が可能
- 電源を本体に内蔵
- デスクサイドやスチール製パーティションに取付可能なマグネット Kit M(別売)対応
- カスケード接続専用のポートを1ポート装備
- ネットワークや機器の状態が一目でわかる LED 表示機能

● 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

- RH509SL/513SL/517SL 本体
- 電源ケーブル(AC100V ~ 120V 用)
- 製品保証書(3年保証)
- お客さまインフォメーション登録カード
- シリアル番号シール
- 製品仕様書(英文)
- ユーザーマニュアル(本書)

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。
再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

● 各部の名称と機能

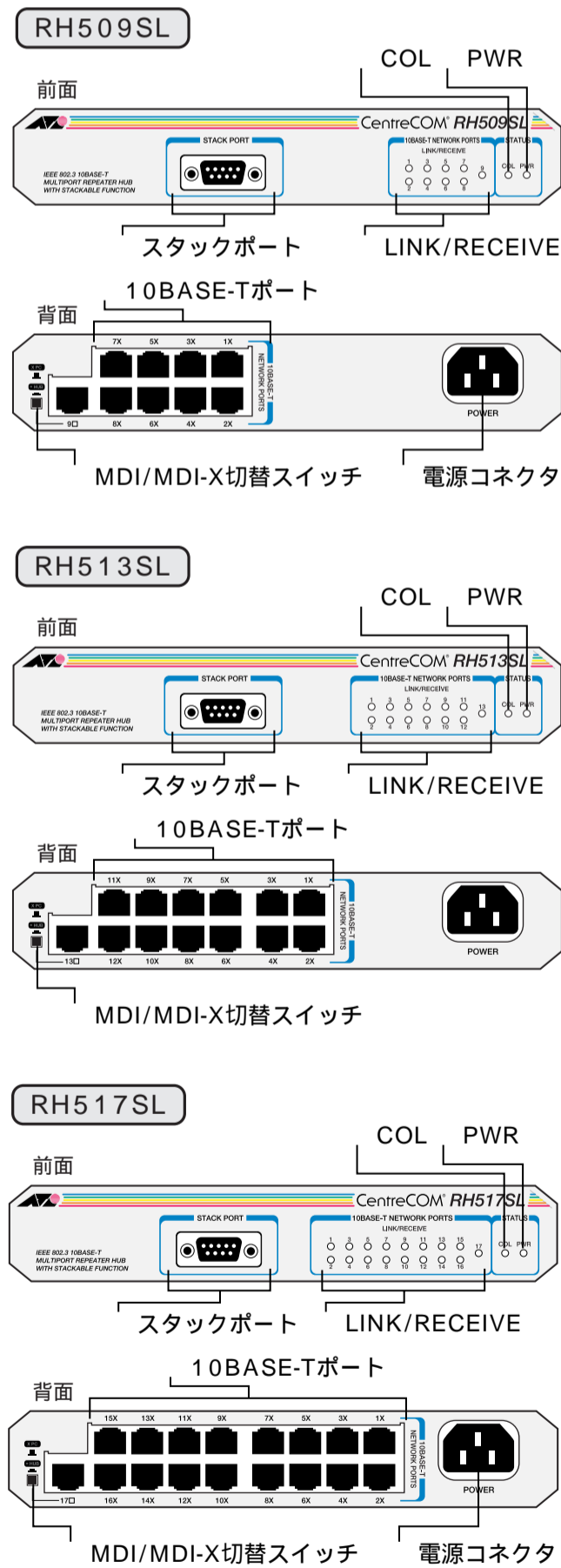


図1 外観図

- PWR(緑)**
電源が正しく供給されているときに点灯します。
- COL(橙)**
コリジョンが発生しているときに点灯します。
- スタックポート**
専用ケーブル(CBL06)を使用してスタック接続するためのポートです。

LINK/RECEIVE(緑)
10BASE-Tポートが正常にリンクされ、相互に通信可能な状態のときに点灯します。
また、10BASE-Tポートでパケットが正しく受信されているときに点滅します。

10BASE-Tポート
10BASE-TのUTPケーブル(シールドなしツイストペアケーブル)を接続するためのコネクタです。
ポート9(RH509SL)、ポート13(RH513SL) ポート17(RH517SL)は、MDI/MDI-X切替スイッチによって、カスケード接続用ポートとして使用することができます。

MDI/MDI-X切替スイッチ
カスケードポート(ポート9/13/17)をカスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-Tポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。

= HUB (スイッチが押し込まれた状態)
カスケード接続をするときのカスケードポート(MDI)として使用します。

X PC (スイッチが飛び出している状態)
通常の10BASE-Tポート(MDI-X)として使用します。

電源コネクタ
電源ケーブルを接続し、電源を入れるためのコネクタです。

● 設置するまえに

設置場所
本製品を設定する場所については、次の点にご注意ください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
充分な換気ができるように、本体側面をふさがないように設置してください。
テレビ、ラジオ、無線機などの側に設置しないでください。

● 電源

本製品をAC100V ~ 120Vの電源電圧で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。
また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。
不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

● 接続のしかた

ケーブル

すべてのケーブルが機器間を接続するために適切な長さであることを確認します。本製品と端末を接続するUTPケーブルの長さ、また本製品を他のハブやスイッチとカスケード接続するUTPケーブルの長さは100m以内にしてください。
また、UTPケーブルはカテゴリ-3以上のストレートタイプを使用してください。

起動と停止

電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込みと起動します。
電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントから抜くと停止します。
本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
また、電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントに差し込んだまま、ソケット側を抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

接続手順

- 本体背面の10BASE-TコネクタにUTPケーブルを接続します。
- ネットワークに接続する端末に、10BASE-Tネットワークインターフェイスカードが正しく取り付けられていることを確認して、UTPケーブルの另一端を端末のネットワークインターフェイスカードに接続します。
- 電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込みます。本体前面のPWR LED(緑)が点灯したことを確認します。UTPケーブルが正しく接続されている場合は、接続したポートのLINK/RECEIVE LED(緑)が点灯します。

● スタンドアローン

本製品は、単なるスタンドアローンの環境で使用できます。本製品と端末間のUTPケーブルの長さは100m以内にしてください。

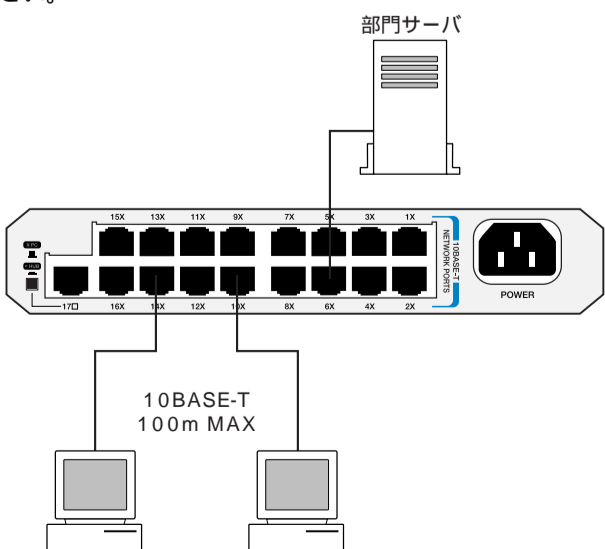


図2 スタンドアローンの接続例

● カスケード接続

カスケードポート(ポート9/13/17)を使用すると、ケーブルを変更することなく簡単にカスケード接続を行うことができます。

接続手順

- カスケードポート(ポート9/13/17)にUTPケーブル(ストレートタイプ)を接続します。
- MDI/MDI-X切替スイッチを「= HUB」(MDI)に設定します。
- UTPケーブル(ストレートタイプ)の另一端の端を、接続先の機器の通常の10BASE-Tポートに接続します。接続先が同一製品のカスケードポート(ポート9/13/17)の場合は、接続先のMDI/MDI-X切替スイッチは「X PC」(MDI-X)に設定します。

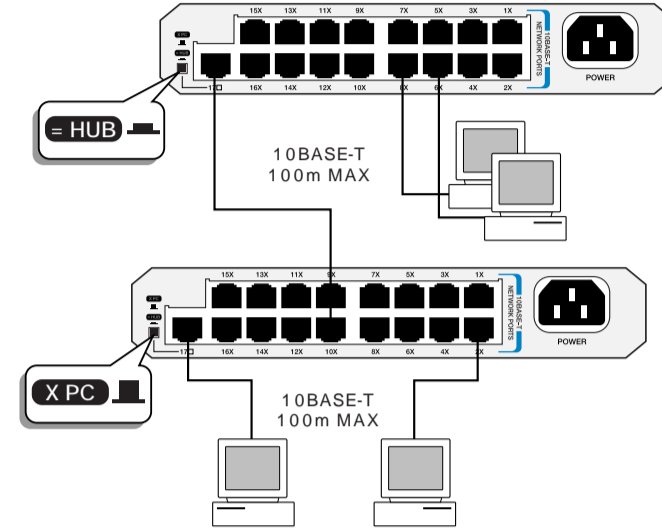


図3 カスケード接続の例

段数の制限

リピータ(=ハブ)のカスケード接続は、最大4台までとされています(これは通信が正常に行われるためのルールで、IEEE802.3によって規定されています)。

図4のように5台以上のハブをカスケード接続しないでください。

ポートの数を増やすためにカスケード接続をする場合は、スター型の構成にすることを推奨します。

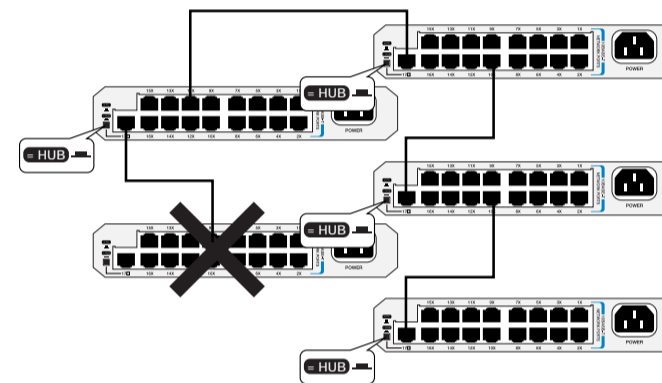


図4 カスケード接続の段数を越えた例

● スタック接続

別売のスタックケーブルCBL06を使用すると、本製品を2段までスタック接続することができます。スタック接続された2台のハブは1台のハブとして機能します。
スタックケーブルの両端をスタックポートに接続し、ネジで確実に固定します。

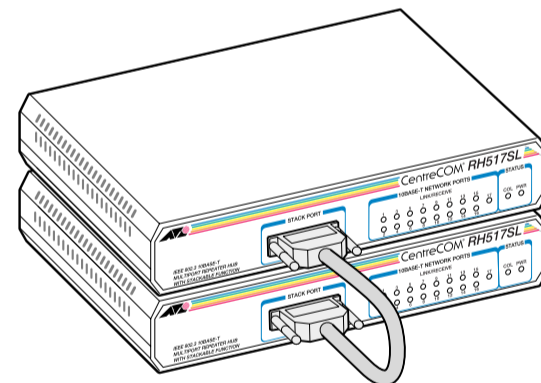


図5 スタック接続

スタックケーブルの接続・取り外しは、電源をOFFにした状態で行ってください。
スタック接続した場合は、必ず上下両方のハブの電源をONにする必要があります。
本製品を上下に積み重ねた状態で壁面に設置しないでください。落下によるケガや本体破損の危険があります。

● トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、次のことを確認してください。

PWR LEDは点灯していますか?
PWR LEDが点灯しない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

LINK/RECEIVE LEDは点灯していますか?
LINK/RECEIVE LEDは接続先の機器と正しく接続されているときに点灯します。
点灯しない場合は、次のことを確認してください。

接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。
また、端末に取り付けられているネットワークインターフェイスカードに障害がないか、ネットワークインターフェイスカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。
また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。
本製品と端末を接続するケーブルの長さ、本製品とリピータやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。

MDI/MDI-X切替スイッチを確認してください。
本製品のカスケードポート(ポート9/13/17)を使用し、リピータやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のMDI/MDI-X切替スイッチを「= HUB」(MDI)に設定してください。

本製品のカスケードポート同士をカスケード接続する場合は、一方を「= HUB」(MDI)に、もう一方を「X PC」(MDI-X)に設定します。

特定のポートが故障している可能性もあります。
ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

リピータ(=ハブ)の数が制限を超えていないかを確認してください。
カスケード接続ができるハブの台数は、最大4台までとされています。
本書の「カスケード接続」の項を参考にして、適切な接続を行ってください。

● 製品仕様

サポート規格
IEEE802.3

電源部	
定格入力電圧	: AC100 - 240V
入力電圧範囲	: AC90 ~ 255V
定格周波数	: 50/60Hz
平均消費電力	: RH509SL 3.0W(最大6.5W) RH513SL 3.5W(最大8.5W) RH517SL 4.5W(最大10W)
平均発熱量	: RH509SL 2.6kcal/h(最大5.6kcal/h) RH513SL 3.0kcal/h(最大7.3kcal/h) RH517SL 3.9kcal/h(最大8.6kcal/h)

環境条件	
保管時温度	: -20 ~ 60
保管時湿度	: 95%以下(ただし、結露なきこと)
動作時温度	: 0 ~ 40
動作時湿度	: 80%以下(ただし、結露なきこと)

外形寸法(突起部含まず)
: 210(W) x 107(D) x 38(H) mm

重量	
: RH509SL	650g
: RH513SL	680g
: RH517SL	700g

適用規格	
安全規格	: UL1950 CSA C22.2 No.950
EMI	: VCCI クラス A

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

調査依頼書 (CentreCOM RH509SL/513SL/517SL)

年 月 日

一般事項

1. 御社名：

部署名：

ご担当者：

ご連絡先住所：〒

TEL: ()

FAX: ()

2. 購入先：

購入年月日：

購入先担当者：

連絡先(TEL): ()

ハードウェアとネットワーク構成

1. ご使用のハードウェア機種 (製品名) シリアル番号、リビジョン

製品名：CentreCOM RH509SL・RH513SL・RH517SL (いずれかを で囲んでください。)



2. お問い合わせ内容

別紙あり

別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図

別紙あり

別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

● 保証

製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みなり、「お客さまインフォメーション登録カード」に必要事項を記入して、当社「お客さまインフォメーション登録係」までご返送ください。
「お客さまインフォメーション登録カード」が返送されていない場合、修理や障害発生時のサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

● ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、右の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記のサポート先にFAXしてください。
電話による直接の問い合わせはなるべくご連絡ください。
FAXで詳細な情報をお知らせいただくと、電話によるお問い合わせよりも、より早く問題を解決することができます。
記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。

アライドテレシス サポートセンター

Tel: 0120-860-772
月～金(祝・祭日を除く)10:00-19:00
土 (祝・祭日を除く)10:00-17:00
Fax: 0120-860-662
年中無休 24時間受け付け

● 調査依頼書のご記入にあたって

調査依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。
迅速に障害の解決を行うためにも、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。記入用紙に書き切れない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

● 使用しているハードウェアについて

製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品の底面に貼付されているバーコードシールに記入されています。

(例)  S/N 000770000002346 Rev AA

● お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に再現できるように記入してください。
エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージ内容のプリントアウトなどを添付してください。

● ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

● おことわり

本書は、アライドテレシス株式会社が作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部、または全部をコピー、または転載することを禁じます。
予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。ご了承ください。
改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。ご了承ください。
本製品の内容、またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

Copyright 1999 アライドテレシス株式会社

● 商標

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

● マニュアルバージョン

1999年3月 Rev.A 初版

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項は必ず守ってください。守られていない場合、感電やケガ、火災、故障の原因となります。



分解禁止
分解や改造をしない
ネジで固定されているパネルやカバーを開けたり、部品を変更して使用したりしないでください。
内部には電圧が高い部分があり、感電や発火のおそれがあります。



感電注意
雷発生時には装置にさわらない
雷発生時には、本体、および電源ケーブル、接続ケーブルなどにさわらないでください。
雷発生時に本体、ケーブル類に触れると感電のおそれがあります。



禁止
指定の電源電圧以外を使用しない
本製品同梱の電源ケーブルは、AC100V～120Vのコンセント以外に差し込まないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
他の装置と併用すると、分岐コンセント部の発熱による発火や感電のおそれがあります。
なお、本製品の定格電源は、AC100V～120V/200V～240Vとなっています。



指示
通気口をふさがないように設置する
本製品の通気口をふさがないように設置してください。通気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。



禁止
電源ケーブルを傷つけない
電源ケーブルを傷つけたり、破損させたり、加工したりしないでください。
また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源ケーブルを傷め、火災や感電のおそれがあります。



禁止
不適切な場所に設置や保管をしない
次のような場所に設置や保管をしないでください。
火災や感電の原因となることがあります。
・直射日光の当たる場所
・高温、多湿の場所
・火気のある場所
・ほこりが多い場所
・振動が激しい場所
・腐食性のガスが発生する場所

ご使用いただける環境の範囲は次のとおりです。
温度0～40% 湿度80%以下(ただし、結露なきこと)



プラグを抜く
設置や移動のときは電源プラグを抜く
本製品を設置、および移動を行う場合は、接続されている機器の電源スイッチを切り、電源ケーブルをはずしてから行ってください。
電源ケーブルが傷つき、火災や、感電の原因となったり、機器の落下などによりケガの原因となることがあります。



指示
本体ボディのお手入れ
本体ボディのお手入れは、柔らかい乾いた布でふいてください。
汚れがひどい場合は、水でうすめた中性洗剤をふくんだ布でふいた後、からぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。